

令和2年度（2020年度）

第1回学校関係者評価委員会 議事録

| | |
|------|---|
| 会議名 | 令和2年度（2020年度） 第1回学校関係者評価委員会 |
| 開催日時 | 令和3年（2021年）6月23日（水） 14:00～15:30 |
| 会場 | 東京バイオテクノロジー専門学校 A42 教室 |
| 参加者 | 川添一郎・伊藤徹哉・池田昭（ZOOM）・松林謙悟（ZOOM）・吉岡正弘（ZOOM） 阿部正己・阿部隆一（欠席） 中村道雄・小川昭久・大谷啓一・小池伸一・小室真保・杉田佑輔・藤井美江 委員等 3名 学校関係者 6名 事務局 1名（内澤淑子） |
| 進行 | <p>1. はじめに（大谷学校長）</p> <p>2. 委員紹介 全員の紹介をする。 全国農業高等学校長会事務局長 松林先生 松江農林高等学校学校長 吉岡先生の2名の方を新しく紹介。 学校側は広報センター長の藤井を新しく紹介。</p> <p>3. 2020年度の重点課題と結果について 自己点検・自己評価まとめの配布資料を基に説明を行った。</p> <p>①学生レベルに応じた教育＝インターンシップでレベル調整 →インターンシップ先の分類は完成。企業等の授業展開はコロナの関係で難しかった。</p> <p>②高卒者以外への教育提供＝講座・資格・セミナー実施 →コロナの関係で外部向けができなかったが、細胞培養に関しては内部向けとして実施できた。</p> <p>③学校施設で業界と繋がる＝施設貸し出しや協業 →機器の購入計画は進んでおり、充実してきている。協業先はコロナの関係で先行き不透明の企業が多く、見つけられていない。</p> <p>④収益事業の展開＝教育と相乗効果が期待できるもの →産学協同における企業負担についてはほぼ達成ができた。酒類製造についても大田区との協業が考えられる為、次年度具体化に進めたい コロナの関係で計画が実行できなかった項目もあるが、次年度は形にしていきたい。</p> <p>・大田区との協業について 大田区プロジェクトとして、空弁等の食品のみだけではなくとして、お酒も含め、お酒との食事のマリアージュとしての展開で進めている。</p> |

・技能五輪について

化学コースの学生3名が日本代表の強化生対象となり実施をしている。今後は、教育のカリキュラムにも取り入れて継続的に進めていきたい。英語力が求められる。この技能五輪を通じて、モチベーションを上げて自身が必要とし自ら学ぶ姿勢が見られる。

・東京バイオの産学連携・インターンについて

卒業研究を通じて、業界、現場を知っていく、リアルを学ぶ教育を進めている。4年制は研究所（インターン）で学ぶこと。3年制は、産学協同を中心にチームを組んで、人間性と今までの授業の振り返りもしていき、基本的には全員が参加をする形にしている。

・産学連携の取り組み

- ①疑似肉、疑似魚というSDGsと併せて商品開発。
- ②ホテル事業と合わせて、ホテルにおける化粧品ブランドを作る
- ③地域、社会問題を含めた松江農林高校との商品開発。
- ④技能五輪 ⑤日本酒作り（江戸開城）

4. 2021年度行事予定について

- ・1月19・20日卒業研究（学内） 在校生向けに口頭発表
- ・2月4日（金）卒業研究（学外） 業界向け

5. 2020年度自己点検 自己評価に基づく学校評価

・別紙参照

・昨年から異なる部分については朱字で記載をし、口頭で説明を行った。

・学校として注力していきたいポイントに産学連携があるが、目指すところは、教育力の向上ならびに学校運営の成果に繋がるものを目指していきたい。

・コロナの関係で学生が密にならないようにどのように授業をしているか
→蜜にならないように、1クラスの人数を減らして開講している。

・就職活動について

→求人会社数昨年比1.2倍。コースにより偏りはあるが、製造業の仕事は増。開発職は減。緊急事態宣言により、通常通りの動きではないが、宣言解除後に活動ができるように、学内での就職対策・活動については留まることなく、全体の3/4は動かしをしている。

・学生募集について

→申込者限定で、YouTubeで学校の情報が見れるようにしている。SNSに呼び込めるように、DM等で告知をし、行っている。

・退学について

→コロナの影響で退学はほぼなし。大学受験で1名。学費問題の場合は、学生サービスと連携をして学生対応をしている。

・コロナ禍の中でインターンシップはどのように行っているのか

→2020 年後期は、在宅でデータ整理を課題として行っていた。2021 年からは通常通りのインターンシップを実施している。

- ・学校でのワクチン接種について

→申請をしているが、承認が下りていない状態

7. 意見交換等

- ・松江農林高等学校学校長吉岡先生

産学連携について 東京バイオでの東京の強み、松江の土壌、農業に対する意識が高い等、各々の強みを合わせて商品開発をしていきたい。

8. 次回開催予定

2022 年 2 月 4 日（金） 予定